



発行所 財団法人兵庫県消防協会 神戸市中央区下山手通4丁目16番3号 編集発行人 関山 巧 定価 1部44円 題字 井戸知事

消えるまで ゆっくり火の元 ならめっ子

平成21年度消防庁長官表彰

県下三消防機関一八名が受章

平成二二年三月五日(金)、平成二一年度消防庁長官表彰式が、日本消防会館内ニッショーホールにおいて盛大に執り行われ、各表彰受章者代表者に表彰旗等が授与されました。消防庁長官からの式辞の後、長官から各受章代表者に表彰状が授与されました。その後、日本消防協会会長及び全国消防長協会会長から祝辞、受章者代表者

謝辞の後、閉会しました。なお、県下の受章機関、受章者は次のとおりです。(敬称略・名簿順)

- 表彰旗 二機関 播磨町消防団 福崎町消防団 竿頭級 一機関 姫路市家島町消防団



平成21年度消防庁長官表彰



片山会長祝辞

永年勤続功労賞 一〇八名 丹波市消防団 団長 足立 進

- 功労章 一〇名 姫路市飾磨消防団 団長 梶原 哲 豊岡市城崎消防団 団長 日生下 慎一 佐用町消防団 副団長 藤山 裕 昭 神戸市消防局 消防正監 金川 政 陽 西宮市消防局 消防正監 中島 日出男 加古川市消防本部 消防正監 長谷川 美 義 宝塚市消防本部 消防監 岸田 幸 治 加西市消防本部 消防司令長 竹内 正 己 加東市消防本部 消防司令長 藤田 久 夫

- 神戸市西消防団 団長 中村 勝 俊 姫路市香寺町消防団 団長 久斗 讓 二 川西市消防団 副団長 安満 真 哉 香美町消防団 副団長 今後 武 司 丹波市消防団 副団長 岩澤 宏 一 淡路市消防団 副団長 大石 光 司 宍粟市消防団 副団長 大前 和 浩 朝来市消防団 副団長 木村 義 博 たつの市消防団 副団長 久保 俊 晴 神戸市北消防団 副団長 坂井 正 和 神戸市兵庫消防団 副団長 島本 廣 伸 神戸市須磨消防団 副団長 須濱 純 次 太子町消防団 副団長 田中 繁 幸 赤穂市消防団 副団長 中 総一郎 神戸市垂水消防団 副団長 中西 政 嗣 神戸市灘消防団 副団長 中本 榮 市 新温泉町消防団 副団長 奈良 義 孝 豊岡市日高消防団 副団長 成田 安 浩 相生市消防団 副団長 福田 鉄 男 姫路市姫路西消防団 副団長 藤塚 昌 則 たつの市消防団 副団長 堀川 康 寛 豊岡市出石消防団 副団長 松嶋 義 則 佐用町消防団 副団長 矢内 正 敏 淡路市消防団 副団長 渡邊 公 俊 西宮市消防団 副団長 和田 平 雄 明石市消防団 副団長 穂原 史 賀 加古川市消防団 副団長 厚海 正 昭

- 明石市消防団 分団長 石川 三 郎 高砂市消防団 分団長 石田 常 雄 洲本市消防団 分団長 稲葉 保 義 養父市消防団 分団長 岩崎 榮 司 姫路市姫路西消防団 分団長 岩佐 正 誠 新温泉町消防団 分団長 宇野 正 宏 西宮市消防団 分団長 小島 峯 夫 伊丹市消防団 分団長 佐々木 年 彦 三田市消防団 分団長 芝 秀 世 尼崎市消防団 分団長 高橋 清 淡路市消防団 分団長 矮松 弘 教 姫路市姫路東消防団 分団長 長谷川 安 信 養父市消防団 分団長 平山 敏 明 香美町消防団 分団長 前田 博 姫路市網干消防団 分団長 前田 好 昭 姫路市夢前町消防団 分団長 増田 正 昭 尼崎市消防団 分団長 松浦 敬 彦 高砂市消防団 分団長 松岡 明 養父市消防団 分団長 丸山 謙 一 豊岡市豊岡消防団 分団長 宮下 晃 尼崎市消防団 分団長 柳川 佳 明 豊岡市竹野消防団 分団長 山尾 松 夫 赤穂市消防団 分団長 山田 昌 弘 朝来市消防団 分団長 吉成 勝 二 加古川市消防団 分団長 舩野 隆 二 小野市消防団 副分団長 山田 英 俊 神戸市消防局 消防正監 河嶋 幸 一

- 姫路市消防局 消防監 岡村 卓 治 宝塚市消防本部 消防監 西村 和 光 神戸市消防局 消防監 三木 淳 明石市消防本部 消防司令長 石生 雅 広 淡路広域消防事務組合消防本部 消防司令長 柏木 康 宏 姫路市消防局 消防司令長 川合 道 生 尼崎市消防局 消防司令長 河本 博 志 伊丹市消防局 消防司令長 岸本 洋 淡路広域消防事務組合消防本部 消防司令長 桐本 佳 弘 川西市消防本部 消防司令長 小西 勝 典 西宮市消防局 消防司令長 柴田 讓 二 明石市消防本部 消防司令長 杉野 高 司 宝塚市消防本部 消防司令長 橋本 兼 次 丹波市消防本部 消防司令長 藤井 明 姫路市消防局 消防司令長 船越 英 二 加古川市消防本部 消防司令長 松尾 信 也 伊丹市消防局 消防司令長 松原 猛 加古川市消防本部 消防司令長 宮田 正 加古川市消防局 消防司令長 山下 正 美 方広域消防本部 消防司令 植村 博 昭 西宮市消防局 消防司令 太田 久 治 養父市消防本部 消防司令 小川 宏 昭 朝来市消防本部 消防司令 加藤 貞 美 宍粟市消防本部 消防司令 桑垣 繁 伸 西宮市消防局 消防司令 梶野 智 之 芦屋市消防本部 消防司令 下江 久 雄 篠山市消防本部 消防司令 江久 雄

- 消防司令 新家 弘 文 佐用町消防本部 消防司令 谷口 弘 幸 たつの市消防本部 消防司令 玉田 龍 彦 西宮市消防局 消防司令 丹治 壽 男 姫路市消防局 消防司令 中塚 哲 夫 三田市消防本部 消防司令 西山 勝 三 加東市消防本部 消防司令 服部 和 明 加古川市消防本部 消防司令 藤井 照 通 加西市消防本部 消防司令 本多 昇 豊岡市消防本部 消防司令 松岡 洋 三 高砂市消防本部 消防司令 松本 敏 裕 神戸市消防局 消防司令 吉本 和 弘 秋本 均 秋本 均 飯塚 均 岡田 均 赤穂市消防本部 消防司令 岡田 均 神戸市消防局 消防司令 熊野 修 充 熊野 修 充 蔵元 己 充 合志 治 己 重野 治 己 新野 治 己 高畑 隆 夫 長田 千 夫 藤田 千 夫 脇坂 千 夫



竿頭級を受領する家島町消防団長

「地域住民から信頼される存在に」

神河町消防団副団長

中垣 一也



神河町消防団は、平成一八年四月に神崎町、大河内町両町消防団が統合し発足しました。

当初は、旧町消防団の活動内容等方針の違いにより、団員それぞれに戸惑いがありました。

約四年が経過し、操法大会をはじめとする様々な訓練、各種行事、幾度かの有事での出動を経験し、今では新たな仲間との信頼関係が深まり、連携体制も強固なものとなっています。

消防団今昔

67

「環境の変化に即した消防組織作り」

丹波市消防団春日支団 専任副団長 近藤 憲生



丹波市消防団は、平成一六年一月一日に旧水上郡六町の合併に伴い発足致しました。

団本部、六支団を編成し、市民の生命や財産を火災や災害から守るため活動を行っています。

を迎えますが、私が入団する前の年にこんな出来事がありました。その年の夏、例年のない猛暑に見舞われ、所有の水田が干上がってしまいました。その際、地区役員の取り計らいもあり、地元分団の方が、距離のある河川からポンプ車により給水して下さいました。その時の感謝の気持ちは一生涯忘れられません。

又、消防団は地区の祭りの警備、各行事の裏方、時には盛り上げ役と地域にとって常に身近な存在でした。私もその一員になれた事に、当時喜びと誇りを感じたものでした。

しかしながら、現在は他の地域同様価値観の違いから消防団活動に対し一定の理解を示しつつも入団に踏みきれない方が多く、団員数も減少傾向にあります。

我が消防団は、対外的には各種訓練、特に操法訓練には厳し いと思われているかもしれませんが、事実、負担に感じている団員も少なくないでしょう。難しい事ですが、そう言う意見を聞いた時には、できる限りコミュニケーションの場を持ち、相手の立場を理解しつつも訓練の必要性等話し合いにより理解を求めたいと考えています。



私たち消防団員は、広報活動、消火栓訓練等、消防団活動を通じて住民の方に防火防災意識を高めて頂く事、そして有事の際はもとより、地域活動を含め常日頃から住民にとって頼もしい存在になればと考えています。

私たちが消防団員は、広報活動、消火栓訓練等、消防団活動を通じて住民の方に防火防災意識を高めて頂く事、そして有事の際はもとより、地域活動を含め常日頃から住民にとって頼もしい存在になればと考えています。

早いもので私が消防団に入団させて頂いてから二六年の月日が経ちました。当時は地元在住者の入団は当たり前のことであり、地元の企業に就職していた私は大きな不安を抱きながらも、当然のように入団させて頂きました。団員の確保には、それ程苦慮した時代ではなかったように記憶しております。

しかしながら、現在は時代の流れとともに進学や就職による若者の都会への流出、併せて拍車を掛けるように全国的な少子高齢化に伴い、団員不足や昼間の消防人口の減少に伴い消防力の低下が大きな問題となっております。

このような状況の中、今後益々大きくなる市民の消防への期待や防災意識の高揚、そして多種多様な災害に対応するための組織の再編を行い、団員のスリム化及び消防器具の充実を図るとともに、出動範囲の見直しを図り確固たる消防団組織を作り上げていかなければなりません。

また、行政・自治会・消防団が三位一体となった自主防災組織の確立を行い、団員の協力は勿論のことながら、市民一人ひとりのご理解を頂きながら、更に地域に密着した消防組織の強化に取り組んでまいります。

宝塚市消防団の活動

宝塚市消防団

宝塚市は、阪神都市圏の中央背後部に位置し、市域面積一〇一、八九km<sup>2</sup>、東西二二、八km、南北二一、八kmの都市です。宝塚歌劇・手塚治虫記念館・阪神競馬場等には、年間約一〇〇万人の観光客が全国各地から訪れています。

宝塚という地名の由来は、一七〇一年に編さんされた地誌・摂陽群談において、「この塚のそばで物を捨てる者に必ず幸せあり。このことによつて宝塚の名が付いたといわれている」と紹介されています。「塚」とは市内に数多く残る古墳のことで、幸福をもたらす土地として人々に語り伝えられ、宝塚の地名が生まれたと考えられています。

宝塚市消防団は、明治二七年に武庫郡良元村と川辺郡小浜村、長尾村、西谷村にそれぞれ「消防組」が設置され、合併・統合を繰り返して、昭和三〇年に一市一団の「消防団」として発足しました。その後、常備消防施設の整備が進み、市街地の消防分団は随時廃止することになり、昭和五〇年三月、消防団は西谷地域のみに一一分団が配置されることとなり、現在に至っています。

この西谷地域は、市街地から約二五km北方で、南北一五km、東西五kmの周囲を山林に囲まれている。市総面積の三分の二を占めています。宝塚市消防団は、この大半が山林に占められている北部地域を主な管轄区域としており、現在、古東団長以下、副団長二名、正副分団長二五名の団員総数一九一名で構成されています。



宝塚市消防出初式

今後、消防団の運営方針に掲げている「消防体制の充実」をより強固に確立するために、定期訓練はもとより、より一層の地域に根付いた活動を展開し「市民生活の安全の確保」を目指してまいります。

平成22年消防出初式日程表 (4月実施分)

Table with columns: 地区, 実施日, 市町名, 開始時間, 場所. It lists the schedule for fire department opening ceremonies across various regions like 阪神地区, 北播磨地区, 中播磨地区, 西播磨地区, and 但馬地区.

「消防団に入団して」

神戸市兵庫消防団  
第三分団  
柴垣 忠行



私の所属する兵庫消防団第三分団は、兵庫区の中心部、新開地・福原の周辺地域を管轄しております。私は五年前の平成一七年、父の友人の紹介により入団しました。当時はこの地域に消防団がある事すら知りませんでした。入団後に活動内容を知り、驚いたのを今でも覚えています。

私は、これまで消防団活動する機会が少なく、活動と言えは毎月のポンプ点検、年一回の夏季訓練、年末警戒というくらいで消防団員としての強い自覚がもてないまま数年過ぎていました。しかし、昨年のポンプ操法大会の選手として出場したのをきっかけに、諸先輩方とのコミュニケーションを深め、努力した結果第三位という賞を頂きました。この様な成績を残せた事も何よりですが、それ以上に団全体が大会を通して一つになり意思疎通の大事さ・チームワークの大事さを皆と共有出来た事が一番の財産になった様に思えます。

地域の高齢化が進む今、防災活動を通して我々消防団が出来る事はまだまだあると思います。分団長をはじめ諸先輩方から学んだ事を少しでも今後の地域活動に活かすとともに、より

われら若手消防団員(27)

「消防団に入団して」

佐用町消防団  
本部団員  
松本 和也



私は、平成二一年四月に佐用町消防団に入団しました。勤務が佐用町役場であり、職員の多くの方が既に消防団に入団されておりましたが、私の兄が地元分団に既に入団してしま

は率先して消防団に入り、住民の安全を守らなければならぬ」と教えていただき、本部団員として入団することとなりました。佐用町消防団は現在五五分団で団員数一、一三五人です。その内一人が本部団員として活動しています。一人すべてが役場職員であり、他の団員とは少し違った任務を受けています。管轄は団長直轄で、火災時には、消防主任らと現場に直行後、現地の安全確保や駐車場の確保と誘導、一般車両の誘導などを行っています。また、夜間時には発電機による照明の確保なども担当しています。

昨年五月、入団間もないときに町内で発生した住宅火災に初めて出動した際は、夜間でもあ

地区通信

災害につよいまちづくり

たつの市消防団

たつの市は、人口八二、〇〇〇人、面積二二〇、九三km<sup>2</sup>で、市の中心を揖保川が流れ南は瀬戸内海まで南北に長く、地場産業では手延素麺「揖保の糸」や淡口醤油、また春には関西随一の遠浅海岸「新舞子浜」での潮干狩り、冬には豊かな瀬戸内海で育まれた牡蠣が有名で、播磨の小京都と呼ばれる白壁の古い町並みや江戸時代の面影を残す港町があります。

たつの市では、毎年一月の第二日曜に揖保川河川敷「千鳥ヶ浜公園グラウンド」で消防出初式を開催することとしています。

地域の根ざした消防団作りに励んでいきたいと思っています。

昨年の台風九号は、各地に大きな爪あとを残し、西播磨地区にも甚大な被害が発生しました。揖保川河川敷のグラウンドも土が流され、いたる所に窪みができ、流木やごみなどが堆積しました。一時は一月の出初式の開催も危ぶまれましたが、比較的被害の少ない北側に場所を移しての実施を決定しました。まずはグラウンドの流木、ごみの片付けから入り、トラック数台分を処分しましたが次々と問題が発生するなかを何とか開催にこぎつけました。

今年を目玉は平成二〇年度に入団した女性消防団員二名の梯子乗り、六種目（からかさ・火の見・縦大の字・後ろ返り・背亀・しゃちほこ）の演技を男性

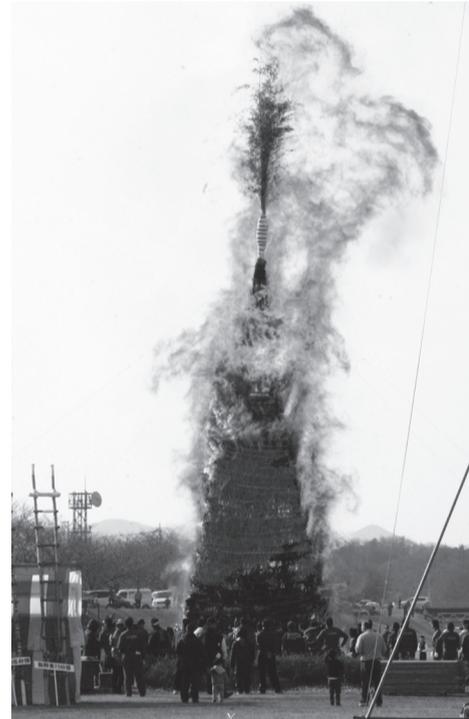


女性消防団員によるはしご乗り演技

また、出初式は地域参加をモットーに地元企業の協力により今年も手延素麺「揖保の糸」、淡口醤油を使ったにゅう麺や焼き牡蠣、甘酒などを団員の手で市民に振舞いました。アトラクションでは、ジャンボとんどへの点火・最後には消防団車両による一斉放水を行いました、平成二二年も「安全・安心のまちたつの」を市民と共に誓い消防出初式を終了しました。



消防団員による焼き牡蠣や甘酒を振舞う様子



とんどへの点火

消防団服

- 甲種 日毛・帝人・東レ団服・作業服・制帽
- 乙種 刺子・木綿
- ハッピー・ズボン・腹掛・革バンド

附属品一式

キンバイホース 兵庫県特約店  
株式会社 三浦消防

姫路市竜野町1丁目1番地  
電話 (姫路) 92-0447  
(0792) 98-8663

「こんにちは！兵庫の消防団です」



http://www.hyogoshoubou.jp/

これからも、災害に強いまちづくりを目指して、消防団員と地域住民が一致団結してたつの市を守っていきます。

# 北から南から

## わが街須磨

### 神戸市須磨消防団

われら神戸市須磨消防団は、本団及び八つの分団の二三〇名で組織されています。

須磨消防団が管轄している神戸市須磨区は面積が約三〇km<sup>2</sup>、人口が約一六八、〇〇〇人で、六甲山系の西端、鉢伏山・鉄拐山が海に迫っています。区の南部は古くからある市街地、北部は大規模なニュータウンで構成された閑静な住宅街です。

須磨区には「源平合戦」や「松風村雨の伝説」などのたくさんある史跡や名所が点在しています。その内のいくつかを紹介したいと思います。

#### 《源平一の谷合戦》

諸説ありますが、平安時代末期の一二世紀後半、打倒平家に立ち上がった源義経は、一の谷に砦を構えていた平家に対し、「逆落し」と呼ばれている一の谷を七〇騎の騎馬で駆け下りる



須磨寺



須磨海水浴場



須磨アルプス

海水浴シーズンには海の家が建ち並び、若者をはじめ家族連れなど神戸市外からもたくさんの方々が海水浴客で賑わっています。

#### 《須磨アルプス》

須磨アルプスは、標高二三〇〇mの山が連なっており、特に横尾山の東側の「馬の背」と呼ばれる部分は、風化した花崗岩がむき出しになった尾根筋となっています。また、毎年十一月に行われる「六甲全山縦走」のコースにもなっており、須磨浦公園をスタートして最初の難関?となっています。

このように、須磨区は歴史を身近に感じることができ、また、自然とも触れ合える素晴らしい街です。須磨消防団はこの街と市民をあらゆる災害から守るため、地域一体となり日夜活動を行っています。



## 平成二二年度 防火防災に関する 作文コンクール優秀賞!

### 「私の町の消防団員」

赤穂市立坂越中学校 二年三輪 朋未

今年度も(財)兵庫県消防協会各支部を通して応募いただきました。平成二二年度防火防災に関する作文コンクールにおいて、赤穂市立坂越中学校二年三輪朋未さんの作品が、優秀賞を受賞しました。これを記念し、受賞作品をご紹介します。

「お父さん、まだ台風こうへんわあ」というとお父さんは、「まだこうへんかっても、早めにかたづけとかな、お父さんお

「オリンピックにでも出られそうやな」なんて笑いますが、そういういなながらも、お母さんは走って行くお父さんを心配そうに見ています。

お母さんいつも、

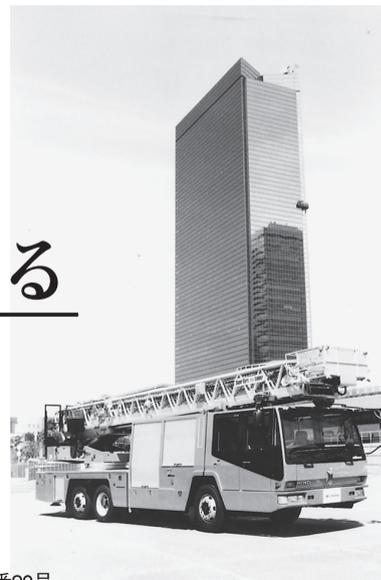
「オリンピックにでも出られそうやな」なんて笑いますが、そういういなながらも、お母さんは走って行くお父さんを心配そうに見ています。

お父さんのハッピーのベルトには、大避神社のお守りがぶらさがっています。

お父さんだけではありません。皆さんの消防団員の方々に世話になつていてと思います。

言葉にして言えないので、ここでみなさんにありがとって言いたいです。

消防団員の方々いつもありがとうございます。



美と力を備えた新しいテクノロジーが社会と暮らしを守り続けます。

## 安心を科学する モリタです。

株式会社モリタ

本社 〒544-0003大阪市生野区小路東5丁目5番20号  
TEL06(6756)0119 FAX06(6754)3473  
東京・大阪・名古屋・仙台・福岡・富山・松山

## 編集後記

寒さもようやく衰え、日増しに春らしくなつてまいりましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

さて、今月号では一面に平成二二年度消防庁長官表彰を掲載しております。また、今月号も各地区から多数寄稿いただき、ありがとうございます。

今月号で平成二二年度分の兵庫消防は最終号となりました。皆様方からの多数の寄稿、ご愛読に対し、厚くお礼申し上げます。「兵庫消防」は来年度もますます充実した紙面を目指してまいりますので、よろしくお祈りいたします。

みなさまのご寄稿をお待ちしております。

【事務局からのお知らせ】  
「兵庫消防」四月号は休刊させていただきます。